

代表者名	千葉 俊	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	男鹿市戸賀塩浜字壺ヶ沢93番地先	設立年月日	平成15年4月16日

【沿革及び県の出資理由】

魚などの触れ合いを通じた学習の機会を提供し、県民の自然保護及び地球環境保全についての理解を深めるとともに、秋田県の観光振興を図ることを目的に県等の出資により設立された。

【出資者】(19年度当初)

(千円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	51,000	51.0
男鹿市	1	31,000	31.0
民間	5	18,000	18.0
計	7	100,000	100.0

【事業】

①主たる業務

秋田県立男鹿水族館の管理運営

②事業実績

(千人)

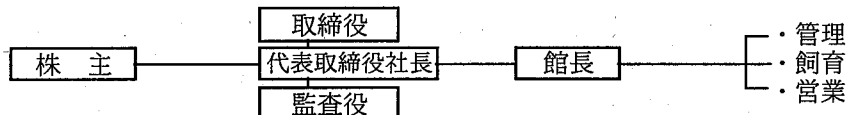
事業名等	16年度	17年度	18年度
入館者数	387	346	278

③18年度事業概要及び19年度事業計画・目標

平成18年度は熊舎に人工造雪機を導入しホッキョクグマは更に元気になり来館者に好評であった。企画展は「ザ・ヒストリウム展」「エビカニ展」を実施した。平成19年度はホッキョクグマ舎リニューアルとアザラシ赤ちゃん誕生を積極的にアピールする。企画展は「わか杉国体ガオ大会」「海洋学習室」「一ノ目瀧展」他を実施し集客を図る。学社連携などで他の団体との連携強化による展示・企画の充実化や館内案内係の配置により、顧客満足度アップを図る。

【組織】

①運営機構



②役員数 (H19.6.8現在) (人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	4	1
内、県退職者		
内、県職員	2	
計	5	1
内、県関係者	2	0

③職員数 (H19.4.1現在) (人)

正職員	22	正職員	正職員
内、県退職者	1	平均年齢	平均勤続年数
出向職員	1	28歳	3年
内、県職員			
臨時・嘱託	1	正職員平均年収	
内、県退職者		2,050千円	
計	24		
内、県関係者	1		

役員報酬支給対象者数	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	55歳
平均役員報酬額	4,700千円/年

【財務】

①損益状況 (18年度)

(千円)

	金額
経常収入 A	473,375
受託事業収入	70,966
水族館収入	218,402
自主事業収入	180,782
運用益収入	
その他	3,225
経常支出 B	464,664
人件費	127,163
その他	337,501
経常損益 C=A-B	8,711
経常外支出	0
諸税	3,832
当期損益	4,879

②財務状況 (18年度末)

(千円、%)

	金額	構成比
流動資産	186,749	85.0
固定資産等	32,921	15.0
資産計	219,670	100.0
流動負債	42,619	19.4
短期借入金		0.0
固定負債		0.0
長期借入金		0.0
引当金等		0.0
負債計	42,619	19.4
資本金	100,000	45.5
剰余金	77,051	35.1
資本計	177,051	80.6
負債・資本計	219,670	100.0

県の損失補償額	県の債務保証額

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	中退共加入		

【県の財政支出】

(千円)

	16年度	17年度	18年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費	43,071	54,881	70,966	水族館を管理するに当たり人件費、宣伝広告費、展示生物費等を支出
貸付残高				

1 主な経営指標

項目		単位	16年度	17年度	18年度	16-17増減	17-18増減
健全性	自己資本比率	%	62.64	79.20	80.60	16.56	1.40
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	240.30	405.74	438.18	165.44	32.44
収益性	剰余金 (▲欠損金)	千円	45,087	72,173	77,051	27,086	4,878
	経常利益率	%	20.50	6.70	1.84	▲ 13.80	▲ 4.86
	総資本利益率	%	50.76	17.82	3.97	▲ 32.93	▲ 13.86
発展性	経常収入額	千円	573,583	578,384	473,375	4,801	▲ 105,009
効率性	総資本回転率		2.48	2.66	2.15	0.18	▲ 0.51
	職員1人当たり経常収入	千円	15,502	19,944	14,345	4,442	▲ 5,600
	人件費比率	%	15.49	22.54	26.86	7.05	4.32

2 経営目標の達成状況

経営目標			16年度	17年度	18年度	19年度
経営改善指標	当期利益 (千円)	目標	2,777	16,507	21,580	7,051
		実績	71,977	27,086	8,710	
事業成果指標	売上高人件費率 (%)	目標	32.0	29.0	29.0	29
		実績	16.7	24.2	27.0	
事業成果指標	入館者数 (千人)	目標	240	350	314	258
		実績	385	346	278	
事業成果指標	売上高 (千円)	目標	243,017	292,250	472,791	379,717
		実績	530,730	575,560	399,184	
	顧客満足度指数	目標	-	-	70	84
		実績	-	76	81	

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

[水族館部門] H18年度は、展示生物の更新、イベント強化、販売強化等により顧客満足は以前よりアップし、館内滞在時間も長くなってきた。また、それをこまめに報道資料にして流し露出度も増えた。しかし、大きな展示生物の登場や赤ちゃん誕生、リニューアルがなく来館者数は減少し計画を達成できなかった。単月決算で水族館部門は5月・8月以外は赤字であり特に冬のマイナスが大きい。

[レストラン・売店部門] レストランはソフトクリームを除くと赤字であり、利用率アップ、単価アップ、人件費削減が必須課題である。H19年度はレストランの営業時間を短縮し、メニューを見直して改善する。

売店は入館者減に伴い収入も減っている。商品構成が同じだと回転率が高くなるにつれ売上が減るので、常に新しい商品を入れるようにする。商品やレジの場所を大きく見直し効率よく販売できるようにする。

[全体]

他団体とのタイアップ企画等で企画展・イベントを更に充実させ、常設展示の魅力アップも継続的に実施していく。雌熊入手と施設リニューアルは今後の展開として重要課題である。

4 総合評価 (計算書類等の資料及びヒアリングによる評価)

I 概ね安定した経営内容	II 一層の努力を要する経営内容
・当期利益4百万円を計上し、3期連続の黒字決算であり一応の評価はできる。 ・しかし、入館者数は6.8万人減少の27.8万人となったため、水族館収入は72百万円の減少となった。指定管理者制度を採用しているものの、水族館の採算性が不安定なため、事業実績を考慮する例外的な取り扱いになっている。 ・水族館部門だけでは25百万円の赤字であり、入館者数を確保できなければ、売店、食堂部門も悪化し、会社全体が赤字になる恐れがある。	